

蒲生干潟の植物⑳

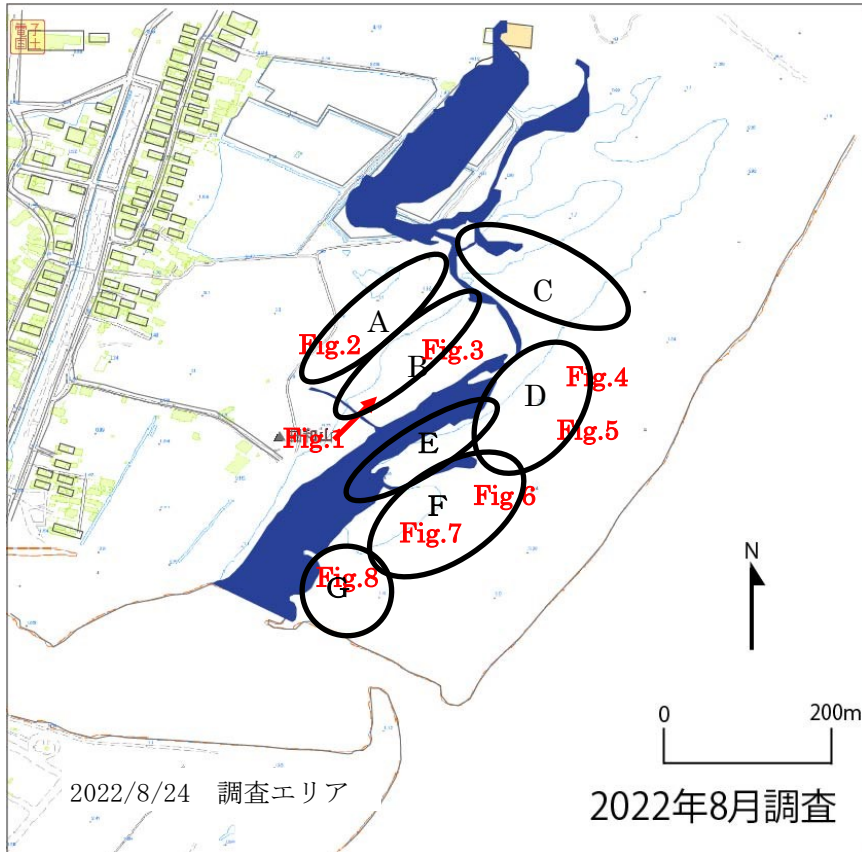


Fig.1 エリアBを南西側から撮影



ヨシ



ハママツナ

Fig.2 エリアAで撮影

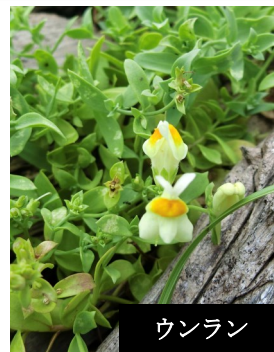
Fig.3 エリアBで撮影



ハマニガナ



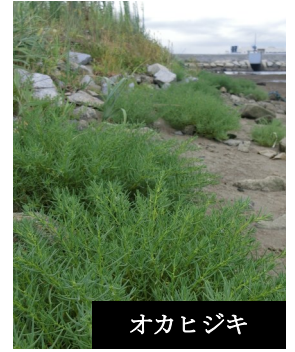
ケカモノハシ



ウンラン



センニンソウ



オカヒジキ

Fig.4 エリアDで撮影

Fig.5 エリアDで撮影

Fig.6 エリアFで撮影

Fig.7 エリアFで撮影

Fig.8 エリアGで撮影

調査日時：2022年8月24日（水）9:50～11:20，天気：晴れ

干潮後の調査で、かなり水位が低かった。定点観測では、ハママツナの緑がよく映え、満潮時に浸水するエリアでのハママツナの流失が一目で分かる様子であった (Fig. 1)。エリアAに広がるヨシは180cmほどに成長しており、根元が茶色く色づき始めていた。穂はまだできていなかった (Fig. 2)。エリアBのハママツナは10cm以上に成長したものがほとんどであった (Fig. 3)。エリアDからエリアGにかけてハマニガナが生育し、どのエリアでも花が見られるようになった (Fig. 4)。エリアD、Fの広範囲に群生しているケカモノハシの穂に毛が見られるようになり、種を飛散する準備を始めていた (Fig. 5)。エリアFの東側にハマエンドウやハマヒルガオの群生エリアが複数あるが、5、6月に花が終わり葉の数が減少したが、再び葉が生い茂ってきた。昨年度も二度咲きするか注視したが開花には至らなかった。エリアFには、ウンランの群生地が2か所あるが、どちらも花が咲き始めていた (Fig. 6)。エリアFの南側では、センニンソウの花が見られた。センニンソウの確認は今回が初めてである (Fig. 7)。昨年エリアGで見られたオカヒジキが今年になってほとんど見られなかったが、エリアGの汀線に沿って生育しているのが確認できた。オカヒジキ周辺に他の植物が生育していなかった (Fig. 8)。

(宮崎佳彦)